

令和元年 第10回

教育委員会定例会会議録

とき 令和元年11月12日

品川区教育委員会

令和元年第10回教育委員会定例会

日 時 令和元年11月12日(火) 開会：午後2時
閉会：午後2時37分

場 所 教育委員室

出席委員 教 育 長 中島 豊
教育長職務代理者 菅谷 正美
委 員 富尾 則子
委 員 海沼 マリ子
委 員 塚田 成四郎

出席理事者 教 育 次 長 本城 善之
庶 務 課 長 有馬 勝
学校施設担当課長 若生 純一
学 務 課 長 篠田 英夫
指 導 課 長 工藤 和志
教育総合支援センター長 大関 浩仁
品川図書館長 横山 莉美子
教職員人事係長 鈴木 成春
統括指導主事 丸谷 大輔
統括指導主事 唐澤 好彦

事務局職員 庶 務 係 長 小林 則雄
書 記 亀田 万恵
書 記 中嶋 康二

傍聴人数 1名

次第

- 報告事項 1 令和 2 年度入学希望申請の状況について
- 報告事項 2 令和 2 年度 品川区立学校教育職員採用候補者選考状について
- 報告事項 3 東京都統一体力テスト調査結果（速報値）について
- そ の 他 令和元年 1 2 月、2 年 1 月の行事予定について

令和元年第10回教育委員会定例会

令和元年11月12日

【教育長】 それでは、ただいまから令和元年第10回教育委員会定例会を開会いたします。

署名委員に、菅谷教育長職務代理者、海沼委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

本日は傍聴の方がおられますので、お知らせいたします。

それでは、本日の議題に入ります。

日程第1、報告事項1 令和2年度入学希望申請の状況について、事務局から説明をお願いいたします。

学務課長。

【学務課長】 それでは、私から令和2年度入学希望申請の状況についてご報告をさせていただきます。資料1をご覧ください。

まず1ページ目でございます。こちらは小学校と義務教育学校前期課程の新1年生の状況でございます。小さい文字で恐縮でございますけれども、左から令和2年度、令和元年度、平成30年度と3カ年分をお示ししてございます。この表の見方でございますけれども、一番上の城南小学校を例にご説明いたします。

学校名のすぐ右側に107とございますのは、10月1日現在の城南小学校の通学区域内に住民登録のある新1年生の人数でございます。その右、希望申請数の増36は城南小の学区外から城南小学校に入学希望された人数。その右の減23、マイナス23は住民登録のある107名のうち、ほかの学校を希望された人数ということになります。その右の120というのは、その差し引きで107から36を足して23を引いた数ということで、こちらが今現在の城南小学校への入学希望者数でございます。その右の90が入学の受け入れ枠ということになります。こちらは、住基人口ですとか過去の入学者数および教室数等を勘案して設定してございまして、新入学生の保護者あてに送付いたしました学校案内パンフレットにも掲載している数字となっております。

これを見ていただきますと、城南小学校の場合は現時点で120名ということで、受け入れ枠は90でございますので、受け入れ枠を超えているという状況でございますので、抽選をするかどうか、これから検討を行っていくということになります。

なお、抽選校の選定でございますけれども、例年ですと11月20日頃に抽選を行ってございましたので、今の時点で決まっていたんですけども、今回は学区の見直しですとか、さまざまな制度の変更がございました。その関係で、例えばさまざまな経過措置なども出てきておりますので、そちらのほうの影響を見きわめたいということで、抽選を12月10日頃という形で予定しております。抽選校の通知を12月2日頃までに予定してございますので、まだ抽選校自体が確定していない状況でございます。ですので、これから12月2日の通知に向けて、さまざまな状況を確認しながら抽選校を選定していくということになってまいります。

こう見ていただきまして、一番下の合計欄をご覧ください。住民基本台帳の合計が3,223名。これが来年度の1年生の10月1日現在の数になります。これは前年と比べますと、前年は3,044名でしたので、179名増えているという状況でございます。このうち、それぞれの通学区域の学校以外の学校を希望された方が808名ということになりますので、希望申請を出された方の割合としては25.1%。昨年と比べますと0.4%ほど増えているという状況でございますけれども、おおむね前年並みかなという形でございます。

制度変更といっても、小学校の場合は学区域の変更がございませんでしたので、あとは選択の関係がブロック制から隣接校に変わったということはあるんですけども、経過措置ということで、昨年度のブロックもまだ引き続き選べるという状況でございますので、大きな変化はなかったのかなというふうに考えているところでございます。

続きまして、おめくりいただきまして2ページをご覧ください。2ページは、中学校と義務教育学校の後期課程、新7年生の状況でございます。こちら、基本的には新1年生と同じなんですけれども、中学校の場合にはこの表の中に先ほどと違う部分がございます。一番上の東海中で見ますと、住基人口238の隣に学区外児童数ということでマイナス52という数字が入ってございます。これは毎年ご説明をしているものではございますけれども、義務教育学校ができて、義務教育学校については学区外から通われているお子さんに関しても7年生への進学をそのまま認めるということになってございますので、ここに入っているマイナス52というのは、東海中学校の通学区域の中でほかの義務教育学校に既に進学をされている方という形になります。そちらの方は、基本的には東海中学校には来ないで現在通われている義務教育学校の7年生に上がることを前提として計算をしているというものでございます。

その他につきましては、小学校前期課程と同じように見ていただければということになりますので、東海中学校の場合は右のほう、現時点では予定者数が211名、受け入れ枠は145名ということで、かなり超えているように見えますけれども、中学校の場合には大体区全体で3割程度が私立の学校に進学されるということがございますので、単純に超えていることが、イコール、抽選になってしまうということには必ずしも結びつかないということでございます。

中学校のほう、一番下、合計の数字を見ていただきますと、住民基本台帳の数字が2,660名ということで、昨年が2,523名でございますので、今年は子供が137名増えているという状況でございます。

このうち、希望選択をされた方が651名でございますので、率にしますと24.5%ということで、昨年は27.5%でしたので、3%ほど減っているという状況でございます。中学校の場合には、今回、学区域の見直しということで大幅に変わっております。いわゆるグループを今度は小学校の都と学区域の通学区域を合わせたということがございますので、これまで通学区域とずれていた学校の関係でいくと、そういう意味ではスムーズに、いわゆる学校選択をしなくても、そのままグループの学校に入れるということになりますので、そういった部分がもしかしたら影響しているのかなというふうに、この選択申請率が下がったのはそういった部分が影響しているのかなというふうに考えているところでございます。個別の学校それぞれの志望状況については細かい分析がまだ終わっていないの

で、確定的なことではございませんけれども、今、一応そういうような見方をしているところでございます。

今後の予定ですけれども、先ほども申し上げたとおり、抽選校については12月2日までに決定してそれぞれの皆様方に通知をし、10日頃に抽選を行うということで、今後のスケジュールとしては考えているところでございます。

私からの説明は以上でございます。

【教育長】 説明が終わりました。質疑があればお願いいたします。

いろいろとお伺いしたいことがあるのではないのでしょうか。どなたからでも、どうぞ。

富尾委員。

【富尾委員】 抽選校はまだ決まっていないということですが、おおむね何校ぐらいになりそうでしょうか。

【教育長】 学務課長。

【学務課長】 実は、この数字を見ていただくと、原則として受け入れ枠を超えている学校が抽選校になることには間違いはないんですけれども、じゃあ、超えれば全て抽選校かという、実は単純にはそうはいきません。というのも、結局、一番大きい原因としては、通学区域からほかの学校を選んでいるお子さんがどれだけいるかということなんです。そうしますと、他の通学区域を選んだ方が、そのまま希望されたところへ入れればいいんですけれども、希望されたところが既に地域のお子さんといっぱいだったりすると、結局は入れなくて戻って来てしまうというのがあります。

そういったものを全ての学校で1個1個見ていかなければいけないものですから、なかなか今の時点で何校ぐらいというのは難しいんですけれども、去年が16校でございましたので、おそらく同じぐらいの数は出てくるんじゃないかというふうには想定しているところでございます。16校というのは、小学校が16校ということですね。

中学校に関しては、去年5校ございましたけれども、中学校は通学区域がかなり変わった関係で、実は住基人口自体がかなり動いているところがございます。例えば2ページ目の鈴ヶ森中学校は、住基人口が91名となっているんですけれども、これは昨年と比べると81名も減っているということになっています。

これは何かというと、それまで鈴ヶ森中学校の区域だったところが、浜川小学校と学区を揃えるために浜川中に大きく動いたというのがございますので、住基人口自体がすごく減っているというのがございます。

一方、例えば荏原第六中学校をご覧いただきますと、住基人口は170名となっておりまして、これは昨年と比べると82名増えているんですね。一番大きいのは、第二延山小学校と学区が合わさりましたので、かなり地域人口自体が増えたといったようなことがございます。

こういった要因があるものですから、抽選校を決めるのはなかなか一筋縄ではいかないのかなというふうに考えているところでございます。

【教育長】 いいですか。

【富尾委員】 はい。

【教育長】 小学校の学区はいじらずに、まあ、いじった部分も若干あるんですけれども、中学校の学区を小学校に揃えたという状況があるので、そもそもの住基上の人口

が中学校では大きく変わってきており、増減もそれに伴って出てきている状況がある。そこが小学校と大きく1つは違うところですよというお話だったと思います。

ほかはいかがでしょうか。

富尾委員、どうぞ。

【富尾委員】 今回の学校選択ですけれども、特に混乱はなかったでしょうか。

【教育長】 学務課長。

【学務課長】 事前にかなり丁寧にといった形で、まず地域の説明会等をさせていただきました。各中学校区ごとに、全ての地域でそれぞれの中学校と義務教育学校で説明会を行いました。そこにもかなりの数の方にご参加をいただきまして説明をさせていただいたということがございます。

そういったこともあったのか、学務課のほうにも抽選近くになってさまざまなお問い合わせはいただくんですけども、そういった制度変更に伴うお問い合わせというのはそれほど多くなくて、例年のように、例えば進学の時期に合わせて引っ越しがあったりするので、そのときの手続きはどうしましょうとか、実はそういったお問い合わせは例年かなりいただくんですけども、お問い合わせ自体の内容は例年とあまり変わっていないような状況がございますので、極端に大きな混乱が生じたといったことはございませんでした。

【教育長】 かなり細かく説明をしてきた経緯があり、またアプリなどを使ってわかりやすいようにしたというのも1つの効果だったのかもしれない。学校を通して保護者の方に直接説明していただいた部分もあったかというふうには思います。

どうぞ、海沼委員。

【海沼委員】 武蔵小山のところにできます新しいマンションがありますね。あそこはいつ入居になるんですか。

【教育長】 学務課長。

【学務課長】 確か、来年の4月以降が入居と伺っております。正式な日程は把握していないんですけども、来年度ということは伺っているところでございます。

【教育長】 それは、あれができると人口がまた増えるので。

【海沼委員】 ですから、途中から入ってくるお子さんがいらっしゃるのかなと。

【教育長】 不安になられているということだと思いますけれども。

【海沼委員】 そこはちょっと心配じゃないのかなと思いました。でも、これを見ますと、大丈夫そうだな、後地小のほうに入れるのかなと思ったりしますけれどもね。

【教育長】 事務局、何かありますか。

学務課長。

【学務課長】 武蔵小山の再開発に関しましては、今回、小学校の中で唯一、学区域を動かした地域になってございます。これまで小山小の通学区域だったものが、後地小になったということで、それを見越してといたしますか、後地小学校の改築においては、かなり大きな規模で今現在建てかえている最中でございますので、基本的には入れるだろうという認識があるんですけども、実は設計を始めた当初と比べますと、再開発自体がどんどん大きくなってきているものですから、当初よりもタワーマンションが増えてくるだろうということになって、若干の不安はあるんですけども、一応、基本的には全部のみ込めるだろうというふうに考えているところでございます。

【教育長】 年度の途中から子供が増えて、例えば40人を超えたとしても、そこでまた学級が増えるという形にはなり得ないので、そのままの継続でいくしかしようがないということにはなりませんけれどもね。

よいですか。ほかはいかがでしょうか。

どうぞ、職務代理者。

【菅谷教育長職務代理者】 浜川小学校と浜川中学なんですが、それぞれ中学校と義務教育学校の後期のほうの比較で見ていると、ほかに希望する方が一番多いですね。浜川が両方ともそういう結果になっている。これはどういうふうに考えていらっしゃるのでしょうか。

【教育長】 学務課長。

【学務課長】 浜川小に関しましては、まず、ほかの学校を希望されている方が135名ということで、211名いらっしゃる中で135名というかなりの数の方が希望されています。実は、浜川小学校自体は学区のお子さんが、今、急激に増えているということがございまして、建てかえが始まったということとございまして。私どものほうへのお問い合わせもかなりあるんですけれども、建てかえの期間はどれぐらいになるんですかというような質問があります。

1年生で入られたお子さんが結局6年生を卒業するくらいまでずっと建てかえという状況になってしまいますので、やはりそれ自体は親御さんも相当気にされているようなことは感じます。ですので、特に近くの鮫浜小学校ですとか、きれいなところがすぐにいるというのがありますので、例年ですと鮫浜小学校はそれほどではないんですけれども、希望されている方は結構いらっしゃると思います。そういった部分では、一番大きな要因は建てかえなのかなと感じているところでございます。

それは浜川中学校も同じなんですけれども、浜川中学校の場合には、今回、学区の変更があったということが一番大きいのかと思っています。そもそも鈴ヶ森中学校の学区だったところが、かなりの部分で浜川中学校に変わりましたので、そうしますと、例えばご兄弟がいらっしゃる方ですとかは鈴ヶ森を希望される方がどうしても多くなってくだろうという形で、実際には浜川からかなりほかの学校への希望が出ているというようなことがあるんだろうなというふうに考えているところでございます。

【教育長】 鮫山小がずっと増になっている、また八潮学園が増になっているのもその影響と考えればよろしいのでしょうかね。そういったところに建てかえの影響が出てきている。中学校のほうも大きくは鈴中と浜中で学区の変更があったのが原因だということですね。

ほかはいかがですか。

塚田委員、どうぞ。

【塚田委員】 それぞれの総数を見ますと、受け入れ枠と入学予定者数を見ると、入学予定者数がかかなり上回っているんですけど、最終的にはこれは落ち着くんですか。

【教育長】 学務課長。

【学務課長】 例年、受け入れ枠と実際の地域のお子さん方の数とに差が出てしまっているんですけれども、小学校に関しましては、それほど私立等に流れる方は多くはないんですが、今、かなりぎりぎりの線ではきています。いずれにしても、区内にお住まいのお

子様方は必ず区立の学校でお受けするという大原則がございますので、最終的に、例えばこの数字の中で収まらなければ、学校の中で教室の増等で対応して必ずお受けするということになります。中学校に関しては、かなり私立のほうに流れますので、この数字の中でも3割ぐらいはおそらく流れるだろうということで、見込みとしては1,800人程度かなというふうに思っています。そういう意味では、受け入れ枠にまだ多少余裕があるということです。小学校のほうはちょっと厳しい状況ではありますけれども、必ずお受けはするというように対応しております。

【塚田委員】 わかりました。

【教育長】 よろしいでしょうか。今回、私のほうから1つ、32番の日野学園の前期課程のほうが例年に比べると増の要素が少ないかなと、そういうふうに読んだんですけれども、特にこれは何か影響が出たとかというわけではないんでしょうかね。

学務課長。

【学務課長】 日野学園に関しましては、確かに例年60人前後希望されている方がいらっしゃるんですけども、今回はその半分ぐらいということになっています。日野学園に関しては、特段大きな要因はないんですけども、1つは近隣で芳水小学校が建てかえになったということなので、あちらのほうに希望される方も結構いらっしゃるのかなということです。個別の分析自体はまだできていないので、はっきりしたことは言えませんが、可能性としてはそういったところが大きいのかなという気がしております。

【教育長】 なるほどね。小学校はそうでもないんですけども、中学、義務学後期に関しては、昨年27.5%の方が希望申請されていた。今年はそれが24.5%ということで、3ポイント下がってきている。地域に根差した教育活動を展開していこうということで、学事制度審議会に基づいてこの制度を見直した形で、より地域密着型の選択をさせていただいた傾向が今回は見えたかなという感じがします。毎年、上がったりがつたりしているんで、また2、3ポイントは変化が出るかもしれないんですけどもね。数字だけでは語れない部分も多いのではないかなと思いますけれども、ぜひ私たちも注視して見てければなというふうに思っております。

それでは、令和2年度入学希望申請の状況につきましてよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【教育長】 では、本件は了承いたします。

次は、日程第1、報告事項の2 令和2年度品川区立学校教育職員採用候補者選考状況について説明をお願いいたします。

指導課長。

【指導課長】 それでは、私のほうから日程第1、報告事項2 令和2年度品川区立学校教育職員採用候補者選考状況につきまして説明をさせていただきます。

資料2をご覧くださいと存じます。令和2年度4月1日採用になります品川区立学校教育職員の採用候補者選考の状況でございます。

まず1、第1次選考は令和元年7月28日日曜日に実施いたしました。申込者総数は61名で、うち辞退者が21名、受験者は40名ということでございました。そのうち、第1次選考合格者は23名ということで合格を出してございます。内訳のうち、一般、経験というのは、経験者枠というのは教員経験がある者を経験者選考、一般はそれ以外という

ところでございます。

2、第2次選考でございますが、令和元年8月31日土曜日に第2次選考を行いました。第1次選考がいわゆる筆記試験に基づくものでございます。第2次選考は、対象者23名に対して集団面接・個人面接を課したものでございます。辞退者が1名おりましたので、受験者は22名ということで実施をし、9名の合格者を出したところでございます。

3、採用候補者面接ということで、その9名に対して令和元年9月21日土曜日に最終の採用候補者面接を行ったところでございます。辞退者はゼロということで、受験者9名全員に対して行い、採用内定者を3名合格ということで出したところでございます。内訳は一般が2名、経験者枠が1名ということでございました。以上の3名が内定者ということで、このままその方たちが採用されれば令和2年4月1日付で本区の教員になるというところでございます。

説明は以上でございます。

【教育長】 説明が終わりました。質疑があればお願いいたします。

最終的な倍率は20倍ということになりますね。

【指導課長】 はい、約20倍、61名です。

【教育長】 どうぞ、塚田委員。

【塚田委員】 内定者が3名出ましたけれども、実際に働いてくれるんですかね。何か去年あったような気がするんですが。

【教育長】 指導課長。

【指導課長】 それにつきましては、どの内定者も品川区立学校の教員採用試験と同様に他都道府県も受験してございますので、それとの併願状況というのもありますけれども、現時点ではこの3名に私どもでは内定を出しているというところの報告であります。

以上でございます。

【教育長】 面接の中では品川を第1希望でとおっしゃるんですけれども。

【富尾委員】 絶対に言いますね。

【塚田委員】 言っただけでいるけれども。

【教育長】 ほかはいかがでしょうか。

富尾委員、どうぞ。

【富尾委員】 一般と経験とがありますが、一般というのは具体的にはどのような職歴の方なんですか。

【教育長】 指導課長。

【指導課長】 一般の……。

【富尾委員】 教員以外というのは？

【指導課長】 基本的には現在大学に在学中で、いわゆる新卒に当たる者が大部分でございます。

【富尾委員】 ありがとうございます。

【塚田委員】 卒業見込み？

【教育長】 指導課長。

【指導課長】 はい、卒業見込みということでございます。

【教育長】 内定というふうになっているのは、そういった部分も含んでおりまして、

万が一卒業できないということになりますと、これは任用するわけにはいかないという状況も出てくる可能性がございます。

どうぞ、富尾委員。

【富尾委員】 それでは、万が一大学を卒業できなかった場合には、1年間猶予を設けるだとか、来年もう1度受けていただくことになったりとかという取り決めはあるんですか。

【教育長】 指導課長。

【指導課長】 この採用選考自体、特段、そのような取り決めはございませんので、あくまでも令和2年4月1日採用候補者の選考ということで行っています。ただ、受験要綱のところにも令和2年4月1日までに教員免許状を取得見込みの者というふうにありますので、それができなかった場合にはそれ自体が実施要綱上は満たさないということになりますので、資格を失うということになります。次年度選考があった場合に受け直すというのはもちろん可能であるということでございます。

【富尾委員】 わかりました。

【教育長】 どうぞ、塚田委員。

【塚田委員】 経験1名というのがいますけれども、これはどういう経歴の方ですか。

【教育長】 指導課長。

【指導課長】 今回、内定を出した1名については、他の自治体において臨時任用教員を行っている者ということでございます。

【塚田委員】 わかりました。

【教育長】 職務代理者。

【菅谷教育長職務代理者】 内定していてもほかに行ってしまう人が過去にも出たというふうに思っていますので、これは制度があるかないかわからないんですけども、いわゆる内定じゃない人、紙一重の部分もあるし、そうじゃないところもあると思うんですが、やっぱりいい人材ならば1年間登録できるとか、そういう制度が東京都にはあると思います。いわゆる登載名簿に載っていて、4月1日以降も採用できる。規則の改正が必要かどうかはわかりませんが、私はそういうこともひとつ考えてもいいんじゃないかなというふうな気がします。やっぱり、落ちた人の中にいい人がいたときに惜しいなと思うことが結構あるんじゃないかと思います。

以上です。

【教育長】 事務局、何かありますか。

指導課長。

【指導課長】 そういう意味では内定者は3名ということで最終合格を出しているところではございますので、今、ご意見をいただいたところも今後の採用選考等を行うときには参考にさせていただければというふうに思います。

以上でございます。

【塚田委員】 もったいないかもしれないですね。せっかく実施して、いなくなっちゃうと補欠ですと。

【教育長】 今、うちだけではなく、都も他府県においても人材が非常に不足している状況がありまして、倍率も下がってきていて、例えば東京都の教員採用試験も特に小学校

に関してはかなり受かりやすい状況が出ているというのが現状でございますね。

よろしゅうございましょうか。

それでは、令和2年度品川区立学校教育職員採用候補者選考状況についてはよろしいですか。

(「はい」の声あり)

【教育長】 では、本件は了承いたします。

次は、日程第1、報告事項3 東京都統一体力テスト調査結果(速報値)についての説明をお願いいたします。

教育総合支援センター長。

【教育総合支援センター長】 今年度、東京都全体で行いました統一体力テストの速報値につきまして、昨年度の本区の数値、そして今年度の本区の数値、また東京都全体の数値を比較した表を作成したものでございます。この表の見方を含めまして、何点かポイントとなる点を担当の統括指導主事よりご説明申し上げます。

【教育長】 統括指導主事。

【教育総合支援センター統括指導主事】 私のほうからは資料に沿ってご説明申し上げます。

まず、現在、東京都において確定値を算出しておりますので、あくまでも8月末時点の速報値というような形となっております。四角囲みが2つございます。上が小学校・義務教育学校前期課程、下段が中学校・義務教育学校後期課程となっております。それぞれ男子、女子ごとに分かれています。性別の隣の値ですけれども、各学年3つに分かれています。一番上段が平成30年度の品川区の値、真ん中の段が令和元年度の品川区の値、そして一番下の段が令和元年度の東京都全体の平均という形になっております。青い形で示してあるのが、今年度都平均より品川区が上だった値、黄色の網かけが今年度東京都の平均より品川区が低かった値というような形となっております。

小学校・義務教育学校前期課程、男子の1年生で少しご説明を入れさせていただきます。

握力の欄をご覧ください。平成30年度は、品川区の1年生は8.9キログラムが平均でした。今年度は9.0、そして東京都も9.0なので、白抜きで示してあるというような形になります。

上体起こしにつきましては、昨年度、平成30年度が11.5、令和元年度が11.0、東京都の令和元年度が11.2となっておりますので、黄色の網かけで示されております。

長座体前屈については、平成30年度の品川区が25.2、今年度の品川区が25.8、東京都が25.7となっておりますので青抜きで示しております。

一番右側の項目にご注目ください。こちらが、全ての値を点数化し、体力合計点平均値という形で示してある値になります。右側の欄をざっとご覧いただくと、小学校においては全学年、男女とも青抜き、つまり都平均を上回っています。中学校・義務教育学校後期課程においても、ほとんどの学年の男女で青抜きなんですけれども、8学年の男子のみ黄色、0.1ポイントなんですけど都平均に足りなかったという状況になっております。

御存じのとおり、品川区ではアクティブ・ライフ・プロジェクトにおいてさまざまな取り組みを行っておりますので、黄色の項目もまだございますが、そうした取り組みが功を奏し東京都の平均よりは向上している、青字で示されているというような現状となっております。

ります。

1点のみ、中学校のほうが横の幅が1つ多くなっているかと思います。こちらにつきましては、真ん中に持久走と20メートル・シャトルランという項目がございますが、これは持久力を測定する値でございます、両方やってもいいんですが、学校よっては片方だけでもいい。記録が上の値が点数化に反映されるという形になっておりますので、小学校・義務教育学校前期課程と比べ種目が1つ増えているという現状でございます。

私からの説明は以上でございます。

【教育長】 説明が終わりました。質問があればお願いいたします。

塚田委員、どうぞ。

【塚田委員】 結論的には「まあまあいいんじゃないですか」というところですか。

【教育長】 どうぞ、統括指導主事。

【教育総合支援センター統括指導主事】 東京都全体が実は5年ほど前はほぼブービー、最下位だったんですね。東京都はだんだん上がってきています。その中でも都平均よりも伸びている。都の中でもこうして伸びているというのは、委員のおっしゃったとおり、頑張った成果ではないかというふうにとらえております。

以上です。

【教育長】 ほかにはいかがでしょうか。

はい、職務代理者。

【菅谷教育長職務代理者】 1点、50メートルは速いんだけど、持久走が遅い。持久しないということなんでしょうけれども、中学でやっている持久走は、これは秒単位で書いてありますが、距離はどのぐらいなんでしょうか。

【教育長】 統括指導主事。

【教育総合支援センター統括指導主事】 男子と女子で距離が変わっております。男子が1,500メートル走、女子が1,000メートルでございます。

【教育長】 この持久走とシャトルランに関しては、特に中学生のほうでは課題であるということが浮き彫りになっているかなというふうには思います。これは見方にもよるんですけども、品川の場合には30年度と元年度と2年度分出していただいているので、経年変化がわかるんですね。

30年度の7年生は元年度の8年生ということになります。30年度の8年生は元年度の9年生ということで、都の伸びと比較して区のほうの伸びがないようなところもあるかなという感じはしますね。女子の場合には、8年生より9年生の方が遅くなっているという、全都的な課題もあると思うんですけども、こういうところは都会の子供たちにとっては一番苦手な部分とも言えるのかもしれない。

こればかりは現場でのさまざまな場面での指導に委ねていくしかないんですが、持久走というだけに持久力をつけるということは体力要素としては非常に重要な部分だろうと思いますので、この改善はぜひ図っていただきたいなと思います。これからウィンタースポーツのシーズンでもあり、持久力をつけていくのは持久走ばかりではありませんし、縄跳びとかでもそういった力はつけられると思いますので、いろいろと学校なりの指導をお願いできればなというふうに思います。

ほかにはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、東京都統一体力テスト調査結果（速報値）につきましてはよろしいですか。

（「はい、結構です」の声あり）

【教育長】 では、本件も了承いたします。

日程第2、その他に移りたいと思います。令和元年12月、令和2年1月の行事予定についての説明をお願いいたします。

庶務課長。

【庶務課長】 それでは、日程の関係で資料の4をご覧ください。まず、12月、こちらのほうは1回の予定で計画しております。12月10日の2時からとなります。令和2年の1月ですけれども、1月14日、学校訪問を入れまして15時から定例会を行いたいと思います。学校訪問については宮前小学校と立会小学校、2校で行います。それから、18日の土曜日は荏原平塚学園の10周年記念行事ということでございます。10周年ということですので、全員ご参加ということでお願いしたいと思います。それから、今月ですけれども、26日に一応、学校訪問を予定しておりますので、よろしくをお願いいたします。

私からは以上です。

【教育長】 26日の学校訪問については、委員の方々の分担はもうおわかりいただいていますかね。大丈夫でしょうか。

（「はい」の声あり）

【塚田委員】 給食があるんですね。

【海沼委員】 12時です。

【教育長】 給食があるバージョンということでありますので、お間違えのないようにお願いしたいと思います。行くのは中学校でしたっけ。

【富尾委員】 はい。

【塚田委員】 中学ですね。浜川。

【教育長】 はい、よろしくお願ひしたいと思います。

令和元年12月、令和2年1月の行事予定については、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

【教育長】 では、本件も了承いたします。

事務局のほうから、その他、何かございますか。

【庶務課長】 特にございません。

【教育長】 特にないということですので、本日の議事日程は全て終了いたしました。閉会を宣言いたします。お疲れさまでした。

— 了 —